

第2回 篠路駅東口駅前広場の在り方検討会議 議事要旨

【日時】平成30年7月30日（月）18:00～20:00

【場所】篠路出張所

【出席者】

○委員（全14名）

地域委員（11名）

所属/役名等	氏名（敬称略）
篠路連合町内会/会長	伊藤 英夫
篠路連合町内会/副会長	進藤 幸司
篠路地区街づくり促進委員会/会長	井形 信広
篠路地区街づくり促進委員会/副会長	山田 勝敏
篠路地区街づくり促進委員会/総務理事	熊澤 修
篠路中央商店街振興組合/副理事長	寺田 哲
札幌市農業協同組合/理事	高見 敏文
篠路地区社会福祉協議会/会長	藤井 國夫
わきあいあい篠路まちづくりの会/会長	中渡 憲彦
区画整理地権者	砂山 康俊
区画整理地権者	中西 昌裕

有識者委員（3名）

所属/役名等	氏名（敬称略）
北海道大学大学院工学研究院/教授	小澤 丈夫
北星学園大学経済学部/教授	鈴木 克典
NPO法人旧小熊邸倶楽部/理事長	東田 秀美

○ オブザーバー

所属/役名等	氏名
まちづくり政策局総合交通計画部 交通計画課/交通施設担当課長	長南 成明
建設局土木部 道路課/特定街路担当課長	櫻井 英文
都市局市街地整備部 区画整理事業課/区画整理事業課長	久米田 真人
北区市民部 篠路出張所/篠路出張所長	國方 大翼

○ 事務局

所属/役名等	氏名
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/事業推進課長	高田 洋
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画調整担当係長	若林 裕也
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画係	森川 雄太
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画係	大路 陽介

【議事・進行】

- 1 配布資料の説明について
 - 篠路駅周辺地区のまちづくりについて
 - わきあいあい篠路まちづくりの会提出資料
- 2 検討資料等に関する意見交換

【議事要旨】

1. 配布資料の説明について

○篠路駅周辺地区のまちづくりについて

(事務局)

(前回の検討会議の振り返り)

- ・駅前広場のロータリーの形状を考える際に、バスが乗り入れるためのまちづくりの検討、交通結節点として必要な整備、新たな公共交通の可能性の考慮やバリアフリーなどの整備などについて意見が出された。
- ・地域資源としての軟石倉庫について、残すべき意義、活用方法、事業プランの必要性などについて意見が出された。
- ・その他、駅前広場について、より視野を広げた検討が必要であるという意見が出された。

(平成 29 年度実施のアンケート調査結果等)

- ・現在の駅前の景観に魅力があると思っている方は少なく、安心して歩ける駅前空間づくり、お店が連続した賑わい景観づくりを重要と思う声が多い結果であった。また、駅前の街区には商業機能を望む声が多くを占めた。
- ・前回話題に出た篠路駅の利用状況は、東西の人口比により利用比率の推計を行うと西側 55%、東側 45%で西側が若干高くなっている。
- ・篠路出張所の今後については、現地における改修を現在検討中である。

(【参考】アンケート調査報告書：

<http://www.city.sapporo.jp/toshi/kukaku/shinoro/documents/shinoro-survey-report.pdf>)

(地域交流拠点)

- ・札幌市の最上位計画である「札幌市まちづくり戦略ビジョン」において、「地域交流拠点」を定義しており、交通結節点である主要な JR 駅の周辺で、地域の生活を支える主要な拠点としての役割を担う地域などとしている。
- ・札幌市としては、地域交流拠点である篠路において、交通結節点としての役割を担っていくため、駅前広場の整備を行っていききたい。また、地域の生活を支える主要な拠点としての役割を担っていくため、高度利用ゾーンと位置付けている駅前の街区において、民間等の開発により商業・業務・医療などの中核的な都市機能の集積がなされることを期待している。

○わきあいあい篠路まちづくりの会提出資料について

(委員)

(ニュースレター)

- ・ニュースレターの内容は、本検討会議の報告、検討会議を踏まえたわきあいあい篠路まちづくりの会（以下、「篠路まちづくりの会」とする）の意見交換、道路法上における制約の中での活用、模型で考える篠路駅東口の風景、駅前広場の活用に向けた条例の策定などについて、ワークショップ形式で行

ってきた状況を報告している。また、ニュースレターは会員約 50 名に発行しているほか、フェイスブックの会員 200 名以上に配信し、常時 80~120 の既読数がカウントされている。

(シンポジウム)

- 2月2日に開催したシンポジウムにおける参加者アンケートのなかで、鉄道高架事業や駅前の土地区画整理事業などの計画に対する感想、意見として、歴史に相応しい駅前を残してもらいたいという意見も多かったと思う。また、行政に任せるばかりでなく、民間の力も必要ではないかという意見があった。そのほか、現在残っている倉庫群は、民間使用での保存や活用に関する意見が多くあった。
- 9月2日に開催を予定しているシンポジウムがあり、内容は精査中であるが講師は近々決定する予定である。主催は、当会であるが共催、協力、協賛、後援など、ご賛同の組織の方々含めて是非ご検討いただきたい。

(和氣藍々まちづくりテラスにおけるアンケート)

- 前回の検討会議で出た意見を受け、子育て世代も含めた若い女性の意見を積極的にとるという動きの中で集約したアンケートであるが、30代の女性の回答が一番多く、まちづくりを通して自分達の子どもや自分も住んでいるまちに興味・関心を持つきっかけになれば良いという意見がある。
- 現在、不審者情報がよく流れるような篠路地区が安心して外を歩けるまち・駅前になったら良いと強く感じているため、皆さまにも駅前に関心を持ってもらい、子ども達に安心なまちづくりに繋げていければ良いと感じた。
- 歴史的価値についての説明は専門の方を推薦するので、その方より説明をお願いしたい。

(委員長)

- お願いします。

(委員推薦の方)

(篠路高見倉庫の価値)

- 札幌市の地域計画課で平成 22 年に発行された「歴史を活かした景観まちづくりガイド」のなかで、どのような景観資源を評価していくかの視点が提示されており、それに準拠して評価した。特に地域的価値、文化的価値、環境的(景観的)な価値に重点を置いて評価したいと思う。

(①地域的価値)

- 篠路で初めて玉ねぎを栽培して広めた方の倉庫である。また、一農家の倉庫ということではなく、流通に関わっていったという意味で非常に特筆される

べき存在であると思う。

(②文化的価値)

- 札幌軟石は、地質的に言えば凝灰岩という岩石であり、日本全国で普遍的に存在しているものであるが、札幌の軟石、溶結凝灰岩ということでは非常に特徴的な存在感を持っている。
- 札幌市においては、明治の開拓期に軟石が見つかったことで、非常に多用されるようになり、積雪寒冷という北海道の風土の中で、非常に重要な建材としての役割を持っていたと言えると思う。

(③環境的（景観的）な価値)

- その後、次々に倉庫が建設された後、再開発により西側の倉庫が姿を消しているなかで、先駆けとなった倉庫が現在も残っているのは貴重である。東側に残っている農協のれんが倉庫の数棟とあわせて群的な感じで景観を醸し出しているのは、駅前ということでみると札幌市内を見渡してもおそらく篠路だけと言ってもいいのではないかと思う。

(④年代的価値)

- 登録文化財と言われている制度の中で、一つの目安となっている築後 50 年を超えており、時の経過による何物にも替えがたい味わいを出している価値を有していると言えると思う。

(⑤思い入れ価値)

- これまでのワークショップのなかで多くの住民から、駅前の倉庫を今後うまく活用していけたらという声があったと聞いており、普段見慣れて馴染みのある駅前という風景のなかで、皆さんの思い入れとして深く溶け込んでいる存在であると言えると思う。

(⑥活用価値)

- 未来形の話として、倉庫が色々な形でより活用されることにより、駅前の魅力向上に大きく貢献していく潜在的な価値を秘めているのではないかと思う。
- 札幌市内でも少なからず札幌軟石の建物が再利用されている。北国の風土に根差した建物ということで、地域の方や観光客の方々にとって非常に親和性のある存在であり、再利用になじむ存在と言えるかと思う。

(①～⑥の価値に係る総括)

- 本倉庫の価値は、札幌軟石だからといった単一のことではなく、①～⑥の複合的な要素を踏まえての価値で見るべきだと思う。
- 結果的にどうなるかは別として、地域の方々がこの価値を共有し、その扱い

を検討していくというプロセスを経ることが、篠路のまちづくりを良いものにしていくことになるのではないかと考えている。

(委員)

(篠路軟石まちづくりプラザ)

(①地域資源を生かしたまちづくり：3つの目標)

- ・軟石、れんが、緑などの地域資源素材は再評価できる価値を見出せるということまちづくり検討の出発点として、地域固有の魅力ある駅前広場空間、そこに繋がる駅前通を作り出していきたい。
- ・西側も含めたエリアまで含めてまちづくりを展開していきたい。また、まちづくりの展開の中で、駅東通の両側の高度利用に関しては、市民も参加してエリアを作していきたい。
- ・まちづくり・再生活動を、地域の次世代のひとづくりに結び付けていきたい。ここが、篠路地区全体のコミュニティ作りに結びつけていくための拠点のスタートだと考えている。

(②まちづくりへ向けた展望：歴史的建造物の活用)

- ・篠路駅軟石倉庫群を残し、内部空間（公共・公益的な建築物）として、そのまま利用したい。ただし、交通上支障となる部分は、外部空間として駅前広場の景観素材となるように積極的に再利用していきたいというのが理想である。
- ・5年後を目途に地域固有の歴史的な文化財と位置づけて保存、活用したいと考えている。
- ・今後の維持管理には、クラウドファンディング等により民間資金などを導入し、民の力で維持したいと考えている。軟石のワンピースは一定の価値を持っていることから、可能であればその価格を勘案して一つ一つのピースを一人一人が守っていく寄付行為のようなものを行いたい。
- ・JR岩見沢駅や稚内市立図書館も、外壁のれんがのワンピースに対して寄附してもらっていたが、軟石の実施例はなかなかないため歴史に残ると思う。
- ・出資の制度として、「スリーセブン（777）ピースサポーター制度」（一番古い倉庫のピースの数が800弱あることから、数字を丸めて）というものを、所有者の意向も伺いながら創設してはどうかと考えている。法人や個人などから出資を募ることで、その資金を歴史的建造物たる軟石倉庫建築物を未来へと継承していくための原資として活用できるのではないかと。
- ・篠路軟石まちづくりプラザという名前をこのエリアにかぶせて、そのネーミングライツも資金を呼び込む一つのポイントではないかと思う。
- ・将来的には、都市計画などの変更により、底地の法的な在り方を再考願えないかというのが最終的な目標だと思う。

(③篠路軟石まちづくりプラザの創出：倉庫群の活用方法)

- 一番古く、ロータリーを縮小すると支障とならない1号倉庫は、5～10年以内に文化財登録を目指していきたい。文化財登録や民間利用までの間は、一例として鉄道高架の工事が終了して新たな駐輪場ができるまでの暫定的な市営の屋内駐輪場として保存活用ができると考えており、また、市営の駐輪場に料金を徴収できる仕組みがあることから、使用料収入も見込めると考えている。
- 駅に近い2号倉庫は、交通機能上で支障のある箇所を部分的に解体するなどの減築形式をとることで残すことが可能である。残した建物は、公衆トイレ、駐輪場、倉庫、待ち合いのスペースなどにすることが考えられる。また、解体により発生した軟石は、駅前広場周辺の工作物として利用するなど再利用することが考えられる。
- 駅から最も遠い5号倉庫は、交通機能上支障があるため、全体を解体するが、可能であれば移築するか、機械彫りで寸法精度もいいため解体材を建築物や広場空間の素材として再利用してはどうかと考えている。再利用を検討するにあたり、道路上占用が可能な建築物である交番として活用することが考えられる。
- 3棟の倉庫を駐輪場等、公衆トイレ等、交番として残す場合、ロータリー以外の外部空間が約900㎡あり、そこを人が集う又は通行に支障のない部分として利用するという案となる。費用面を勘案して交番はなしとすると駐輪場等として1棟と公衆トイレ等として3分の1を残すということになる。それでも費用面で難しいとなるようであれば、解体したものは外部空間に使い、最後の駐輪場等として1棟だけでもしっかりと残していくことを考えている。

2. 検討資料等に関する意見交換

(委員長)

- 都市計画決定をくつがえさないで進めていこうという大方の皆さまの合意があるなかで、篠路まちづくりの会から倉庫を活用していきたいという提案があったが、これに対して札幌市の見解を伺いたい。

(事務局)

- 軟石倉庫に歴史的・地域的・文化的に複合的な価値があるということを、説明で理解できたところかと思う。残していきたいという地域の強い思いも伝わってきたが、現実的には様々な課題もあると認識している。
- 提案内容について、駐輪場は鉄道高架下に設ける予定であり、また、有料の駐輪場は都心部だけであり郊外の駐輪場は無料の状況である。トイレは通常駅舎に設置されており、市では駅前広場にトイレを設けていない。いずれも必要性を説明することが難しい。
- 仮に駅前広場の機能として軟石倉庫を残す場合、その妥当性や土地の確保などは行政が整理していく必要がある。一方、初期投資やグレードアップのための費用については、市として通常の駅前広場の整備以上の負担は困難であ

ることから、残そうとする主体に責任を持って対応いただく必要がある。このような様々な検討事項について、公民連携で役割分担することが必要と考える。

(委員長)

- ・現時点での札幌市の見解をお示しいただいたが、東口駅前広場の機能をどのように考えるか、その位置づけを踏まえながら軟石倉庫を残す場合の事業性や現実性などについて意見交換していきたい。
- ・次回の検討会議には、一定の方向性を出していきたいと考えている。

(委員)

- ・これまでの札幌市のワークショップにおいても、駅前広場のシンボルとして軟石倉庫を残してほしいという意見が多かった。自分としても、シンボルとして残してもらいたいという気持ち強い。
- ・駅前広場の在り方について、札幌市の案として1つ目は全ての倉庫を撤去、2つ目は一部を残すことが可能と二者択一であるため、メリットやデメリットを踏まえ、どちらにするか札幌市に意見を挙げる必要がある。
- ・倉庫所有者の利用意向がある場合は尊重すべきである。
- ・5号倉庫を解体した材料の一部を使い、駅前交番などに利用してもらえればありがたいと考え、道警なりに交渉してほしいと思う。
- ・保存ありきで進めるのではなく、倉庫所有者の意向を確認すべきである。
- ・保存には1億円は掛かる見込みで、その費用をどのように集めるのかというスケジュールができていなければ難しいのではないか。
- ・この篠路のまちづくりは昭和60年から進めており、1日でも早く進めて欲しいという想いがある。
- ・本日の検討会議のここまで、軟石倉庫の議論に相当の時間を費やしているが、駅前広場のバリアフリーや、交通などのことも議論したいため、その部分も先に進めて欲しい。
- ・今日の検討会議の進め方に問題があるのではないか。倉庫保存ありきの話で前回と変わらず進んでおり、2時間と限られた時間のなかで半分以上を使われると、他の議論ができない。
- ・前回の検討会議のなかでも交通アクセスなどの話があったが、今回そのような内容が出てきていない。
- ・篠路出張所を、もっと活用できる機能を持った出張所に変えていくことを検討する機会でもあると考えており、それらも踏まえてロータリーの形状がどうあるべきかを考えて議論を進めてもらいたい。
- ・検討会議資料のなかで個人名が出されている。本人の了承確認がされていないのは問題であるため、今後は確認をとっていただきたい。

(事務局)

- ・ご指摘があった資料は、朝日新聞のコラムであり、新聞に掲載されたものであるため、公表されている資料という認識であった。

(委員長)

- ・倉庫以外にも議論すべきところのご指摘もありましたが、都市計画決定を止めないためには、倉庫の扱いが非常に大事な議論のポイントの1つとなっているため、バランスよく議論していきたい。
- ・篠路まちづくりの会からの提案内容は、倉庫の活用に係る1つの可能性として検討いただいたもので、倉庫所有者の意向はまだ伺っていないことでしょうか。

(委員)

- ・倉庫所有者の意向はまだ伺っていないが、地域の悲願として事業は進めていただきたいので止めるつもりはない。

(委員長)

- ・倉庫についての話題提供は、検討会議の意見を集約して、倉庫を残すかどうかの1つの参考情報として考えていただきたく、誤解がないようお願いしたい。

(委員)

- ・前回の検討会議のなかで、札幌市が倉庫所有者へ交渉する話と、バスの乗り入れに関する話があったが、その回答が出てこない。また、ロータリーについても、札幌市の考えが見えてこない。
- ・東口駅前広場の在り方について、商用の大きなビルを建設し、そこにテナントが入ることで繁栄するなど、華やかにする意見がこれから出てくると思うが、札幌市の考えが見えないことで検討会議が小さな意見で終わってしまうことが残念である。
- ・地域交流拠点の在り方で、篠路出張所は現地における改修を検討中とのことであるが、費用や何年持たせるのかということが示されていなく、移転の方向性が見えてこない。仮にこの拠点が駅側に移動するとなると、人の流れが大きく変わるため、大きいロータリーが必要であるが、現存するのであれば花畔札幌線の拡幅が進んでいるので、小さいロータリーでも十分だと思う。
- ・都市機能の集約のところでも、駅前通に沿って市が借り上げて商業地域を誘致するという話もないなかで、単に商業地域を望むというだけでは全く参考にならない。市として10年後どのようになるのかという姿を見せていただきたい。
- ・倉庫を残すかどうかにより、交通上の問題などが全く変わってくるため、ロータリーの形状を決めなければならないのではないかと。
- ・検討の順序としては、倉庫を残すかどうかと言う議論より前に、ロータリーをどうするかが決まってから、倉庫が残せるかどうかの議論になるのではないかと。大きいロータリーが必要であれば倉庫を残すことはできないが、狭くても良いとなった場合に、費用を含めて残し方の話になってくるかと思う。その場合、お金をどうするかということは一番大きな問題となる。
- ・個人的な意見であるが、小学校高学年向けに篠路の歴史の本を作成した際に、篠路の歴史を調べて、現地を見て回ったが、倉庫群には由緒を感じなく、篠路駅や駅前の松には由緒を感じた。

(委員長)

- ・ロータリーの在り方から倉庫の在り方を決めるか、倉庫の在り方からロータリーの在り方を決めるのか、2つの方向性で議論が分かれているが、この検討会議で何を優先すべきか決めていかなければいけない。

(委員)

- ・倉庫について、個人の所有物であるので所有者の意向が第一であり、それが大前提となるため、検討会議で勝手に検討するのは違うと思う。
- ・検討会議の進め方について、何をまとめていくのかなどが分からなく、前回の議論に対する回答もない。結論がなく終わっている感じである。

(委員長)

- ・倉庫所有者の意向が第一であることは、皆さん共通の認識である。
- ・検討会議としては駅前広場の在り方を協議して決めていくことが1番の目的であるが、どのように進めていくかについて、札幌市として気になるところはあるか。

(事務局)

- ・ロータリーの規模、その規模に対するメリットやデメリットについて検討いただき、駅前広場の在り方について合意形成を図っていく場にしていきたいとして考えていた。また、軟石倉庫の扱いについて、その価値に共通の認識を持てるのかどうか、地域の考え方として合意形成していければ良いと考えていた。

(委員長)

- ・委員の方々には札幌市がどうしたいのかが分かりづらいのだと思うが、札幌市から様々な相談を受ける立場から、第三者的に感想を述べさせていただくと、札幌市が公共的なプロジェクトとして、東口で事業を行うことについて市民のコンセンサスを得ていないというものがあると思う。
- ・駅前広場や高度利用ゾーンで事業を行うのは札幌市ではない中で、具体の事業化は民間を入れてどうしていくかという、別のレベルのスキームだと考えている。行政が主体的に事業を行う立場ではないため、札幌市では意見を出しづらい状況と思われる。
- ・そのような中、歴史的建造物と言える軟石倉庫という資源がある状況で、この在り方によってロータリーの在り方も大きく変わる。民間の方がこれからどう動くかは分からないが、将来をどう予測して、駅前広場をデザインしていくのか、検討会議ではその方針を共有する必要があると思う。
- ・札幌市のこういった状況も踏まえた上で、検討会議では考えていく必要がある。

(委員)

- ・篠路中央第二町内会の方に軟石倉庫について聞いてみたが、魅力を感じない、倉庫のため人の流れもなく、前が駐輪場のため自転車が増えているなどの意見があった。また、農協の倉庫があることで、商店も建たない、人の流れも悪いと言った意見もあった。

- この町内会は駅前近くにありながら昔から不便な地域であり、昔は商店など沢山あったが、道路の拡幅による立ち退きで無くなった。地権者は立ち退きがあるから商売をやりたがらない。また、高齢化が進む中で、家を建ててもすぐ空き家になってしまうようなこともある。
- 根本的にまちづくりを考えていく必要があり、札幌市には未来に向かって良い街になるように計画を立ててもらいたい。
- 倉庫を駐輪場として活用するのは、採算的に合わないと思う。駅前自体も駐車禁止ではないため、過去には駐車場があったがつぶれた。
- 倉庫を残すことが前提で、その議論に時間を費やしているため、公平な意見を出す場でなくなっているという印象である。歴史的な建造物だから残せ残せと言っても、一足飛びにはそうはならないと思う。まちづくりの視点に立って考え、必要であれば倉庫も残すという原点に立ち返らないと、委員として発言がしにくい。
- まちづくりの中で倉庫を活用し、その活用が将来に広がりを持っているものであれば賛成できるが、駐輪場やトイレなどの活用であれば夢は描けない。
- 所有者不在の論議は失礼で、然るべき人が意見を採り取って進めていかなければいけない。
- 他の委員の言うとおりの、検討会議の時間の使い方は整理したほうが良い。
- まちづくりの中で篠路駅前をどのように位置づけるのかイメージできるよう、類似の駅などの情報があれば、もう少し議論がしやすいのではないかと。
- 軟石倉庫を残したいという想いも理解したが、コストや耐震性といった課題もあると思う。こういった課題を挙げて、それぞれ乗り越えられるかに関する情報があると、限られた時間のなかで議論が進めやすいと思いい、そういった情報も欲しい。
- 倉庫だけについて話す場ではないため、時間の使い方について問題があると思う。
- 一方、そのほかの論点が整理され切っていないと感じる。ロータリー、交通、商業の考え方が明示されていないため、次回までにできる限り明示して、整理しておくことが必要である。
- 倉庫は、自身としても、篠路、札幌市民、北海道、全国としても重要だと思っており、残すべきだと思っている。
- 都市計画決定を遅らせないことを重視するために、現状は魅力的な使い方の提案ができないが、時間を掛けて、魅力的な空間として活用できる可能性があると思いい提案いただいたものと思っている。
- 篠路の歴史である倉庫を壊してしまっでは 2 度と作ることはできず、他と同じような駅前広場ができるのは良くないのではないかと。倉庫という篠路の魅力やアイデンティティを残していく方向で、今までとは違う方法はないのかという議論になっていく選択肢があると思いいている。

(委員長)

- まだまだ議論が必要で時間を掛けていく必要があるが、スケジュールについ

て札幌市の見解を伺いたい。

(オブザーバー)

- 土地区画整理事業の着手に向けて検討を進めているところである。
- 倉庫の所有者は倉庫業を営んでいるため、それを継続する前提で市としては補償交渉を進めていき、そのうえで残すか残さないかという話となる。
- よって今の時点では、倉庫を残した時にどうなるかというケーススタディをしていただいていると理解している。
- スケジュールについては、1日でも早くという考えがあり、事業認可を今年度内に実施するために9月に時限を設定した。
- ただ、実際に地域の方の最も関心のあると思われる建物の移転は平成33年頃、道路工事は平成36年頃の予定で、まだ少し時間がある。
- 検討会議をずっと継続はできないが、どのくらいずれても地権者に迷惑を掛けない形でスケジュールを描けるか、検討していかなければならないと考えている。

(委員長)

- 詰めていっていただきたい。

(オブザーバー)

- バリアフリーと駐輪場について情報提供させていただく。駅舎については、エレベーターが付く予定であり、駅前広場についてもバリアフリーで整備する予定。また、駐輪場も高架下に必要な台数を確保する。

(委員)

- 西側の駐輪場も一緒にするのか。

(オブザーバー)

- JRと協議中だが、駐輪場は鉄道高架下に設ける方向性で話している。場所は、北側と南側の両方に予定しており、そのうえで西側をどうするかも併せて協議する。なお、駅前広場に設置することは考えていない。

(委員長)

- 篠路まちづくりの会から話しがあったクラウドファンディングなど、地域外の方から支援を募り盛り上げていこうとする考え方は評価でき、積極的に考えていく必要があるのではないか。
- 駅前広場の在り方について、原点に戻って仕切り直しをしながら、次回の検討会議に向けた準備を進めていく必要がある。

(委員)

- 駐車場について、JRと話しているのか。

(オブザーバー)

- 今後協議するが、JRがパーク&ライドとして整備することも考えられる。

(委員)

- 駅を利用するための駐車場になれば良いと思う。

(事務局)

- 次回は9月12日、篠路出張所2階にて18時から開催する。